

滑川市ふるさと・ジオパーク現地研修会

7月28日(月)、「滑川市ふるさと・ジオパーク現地研修会」を開催しました。今年度初めて滑川市に赴任した先生方が参加され、3名の講師の方々をお招きして、滑川市の自然や防災について学びを深めました。

【講師】

滑川市立博物館	館長	近藤浩二 先生
魚津埋没林博物館	学芸員	佐藤真樹 先生
立山黒部ジオパーク協会	専門員	森内裕之 先生

現地見学に先立ち、森内先生から講話いただきました。講話では、高低差が約4,000mある立山黒部ジオパークの特徴をはじめ、日本屈指の急流河川である早月川の洪水被害とその対策、水はけがよく平らな土地をつくる扇状地の特徴、寄り回り波などについてご説明いただきました。これらの説明を通して、滑川市の自然環境や防災に関する概要について知るとともに、現地見学の視点や見通しをもちました。

橋場では、佐藤先生から「寄り回り波」についてご解説いただきました。「普通の波とどう違う？」という問いかけとともに、「お風呂の中で体を動かすときどきうねる波」と例に挙げ、波の強さを分かりやすく説明してくださいました。

現地には大きな石が転がっています。かつてこれらの石が波に持ち上げられ、民家まで飛んできた災害があったこと、そのような被害を防ぐために高い堤防を築いてきた先人の努力等について、近藤先生からもご解説いただきました。

大浦では、近藤先生から「五厘堤」と呼ばれる堤防についてご解説いただきました。早月川は急流であるため、これまで幾度も洪水を引き起こし、滑川市ではたびたび浸水被害を受けてきました。こうした被害を防ぐため強固な堤防が必要とされ「五厘堤」が築かれました。この堤防は、勾配がおおよそ直角(五厘：約87度)であることが特徴で、明治時代に築かれた当時の姿を現在も保っています。その構造の強さや、滑川市を守ってきた歴史について学びました。



講話



橋場（波消しブロックと堤防）



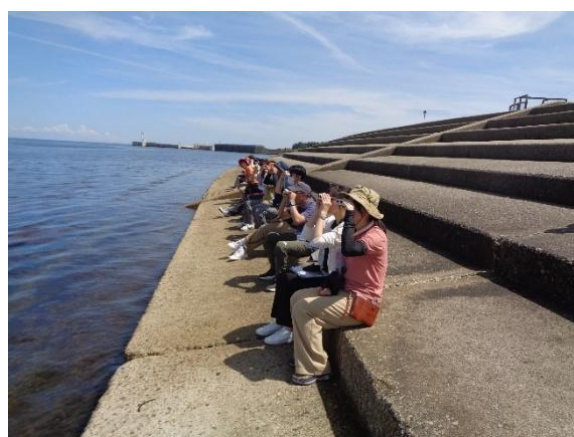
大浦（五厘堤）

波消しブロックや堤防・五厘堤は、副読本「ふるさとジオパーク」に紹介されています。副読本には「滑川の大地」「早月川と滑川」「海と共に歩む滑川」のテーマごとに情報が記載されています。理科や社会、科学の時間、総合的な学習の時間等の様々な授業でご活用ください。



中川原（はまなす公園）

ネブタ流しについてご解説いただきました。



中川原（和田の浜）

双眼鏡で蜃気楼を見ました。新湊大橋付近の船がゆがんで見えました。

受講者の感想

何気なく通り過ぎていた場所にジオパークがあったり、先人たちの工夫につながるものがあったりと歴史を感じられた。霞堤など詳しく調べなければいけないような滑川市の歴史にも触れ、自分でも調べたいと思えるきっかけをもらいました。また私が授業をするならと考えて、その学年や学級に合わせた授業や単元を構成していけたらと思います。地域に根ざした学校であるとともに、地域を愛することができる子供になるように一緒に学んでいけたらと思います。

バスを利用して、滑川市の大地について学習することができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

現地研修で、色々な所をまわり、丁寧に説明もしてくださり、分かりやすかった。今年から、滑川市に住んでいるので、これからもっと、たくさんの事を知って行きたい。ありがとうございました。

実際に防波堤や蜃気楼を見て、滑川市に関する新たな知識をつけることができました。

滑川市のことについて今まであまり知らなかったが、講師の方の話を聞いたり実際にその場に行ってきたりして、滑川市の地形の特徴や先人が生み出した自然に対抗するための策について知ることができました。とても有意義な時間を過ごすことができました。

3人の講師の先生方から、現地や車中で詳しく教えていただき、自分の目で見ることによって学びが多かったです。「石を集めて色で分ける」「他の川と比べる」等、子供の心に火をつけ、関心を高める手立てを含め、お話しいただいたことがとても良かったです。このような研修会は、滑川市への勤務が初めての教員だけでなく、関心のある教員にも参加してほしいと思う有意義な研修でした。熱中症対策を含め、細かな点までご配慮いただき、ありがとうございました。

寄り回り波や流水客土など聞いたこともない言葉がたくさんあり、知ることができたので良かったです。

普段、なかなか知ることのない滑川を知ることができて勉強になりました。